



## 公共交通を利用しましょう



### コミュニティバスにんまる

上野市街地内を走行している、忍者がいっぱい描かれたバスをご存じですか。

市民の皆さんが愛着をもち、さらに伊賀流忍術発祥の地「忍者市」にきたことを実感できるバスとして、令和2年4月に現在の「コミュニティバスにんまる」は誕生しました。

4ルート19便が土・日曜日、祝日を含め毎日巡回しており、運賃は一回の乗車につき、大人200円、小学生以下100円で、交通系ICカードも利用できます。またアプリをダウンロードすれば、バスの走行位置をリアルタイムで確認できます。

今年の4月からは、音声アナウンスを沿線の小学生が担当しています。少し緊張したような子どもたちの声に、思わずほほえましい気持ちになります。

「にんまる」に乗って窓の外を眺めていると、見慣れた風景がいつもと違う場所に見えたり、知

らないお店を見つけたり、新たな発見がたくさんあります。

たまにはのんびり、目的を定めずに「にんまる」に乗って、上野市街地を探索してみませんか。

ちなみに、忍者がぎゅっとつまっているにぎやかな「にんまる」のデザインは、申請手続きをすれば、誰でも使用できます。興味がある人はぜひお問い合わせください。



にんまる時刻表



【問い合わせ】 交通戦略課  
☎ 22-9663 FAX 22-9694

### 情報交流ひろば

## となりまち いが・こうか・かめやま

### 甲賀市

#### 神山清子作品展 開催中!

～きよこさんの食卓から～

NHK連続ドラマ小説「スカーレット」のモデルにもなった甲賀市信楽町出身の陶芸家・神山清子さんの作品展が開催中です。

神山さんが生前愛用されていた食器を中心に50作品前後の展示をしています。

今回の作品展では手触りや重さを感じてほしいとの本人の遺志を受けて、作品に直接触れることができま



▲神山清子さんの作品

す。ぜひ、体験してみてください。

【とき】 8月21日(水)まで (月・火曜日休館)

【ところ】 信楽図書館

【開館時間】

午前10時～午後6時 入場・閲覧無料

【問い合わせ】

信楽図書館 ☎ 0748-82-0320

### 亀山市

#### 夏の風物詩「亀山市納涼大会」

亀山市納涼大会の伝統である

市民総踊り「灯

おどり」は、ロ

ウソクに灯をと

もしたポンポリ

を持って踊る幻

想的な盆踊りで、どなたでも自由に参加できます。

ぜひご来場ください。

【とき】

8月11日(日・祝) 午後5時～9時

※小雨決行、荒天中止

【ところ】 亀山公園芝生広場一帯

【アクセス】 ○「JR亀山駅」より徒歩約15分

○名阪国道「亀山IC」から車で約10分

※臨時駐車場(西野公園、亀山市文化会館)から

無料シャトルバスあり

【問い合わせ】

亀山市納涼大会実行委員会事務局(亀山市商工

観光課観光・地域ブランドグループ内)

☎ 0595-84-5074



# 伊賀城和 (伊賀・山城南・東大和) 定住自立圏ニュース



伊賀城和

伊賀市

笠置町

南山城村

山添村

第1弾

## 首長インタビュー 伊賀城和定住自立圏への思い

### 伊賀市

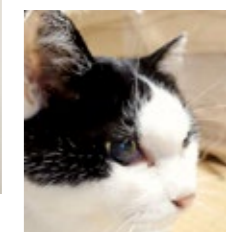
伊賀市、笠置町、南山城村、山添村は、府県境を越えて、医療や文化など生活において関わりの深い地域である。古くは江戸時代から「伊賀城和」として結びつきが強く、圏域内を木津川が流れていることから、定住自立圏のキャッチコピーは「水と歴史でつながる圏域」としている。このような同じ生活圈・経済圏にある住民同士が地域の課題を共有し、連携してより住みやすい地域にしてい

くことが定住自立圏の目的である。これまでの取り組みとして、コロナ禍において圏域内の移動を安心して行えるようにするために「圏域証」を発行した。また、圏域内の子どもたちに対しては、「空からの圏域見学体験事業」を実施し、定住自立圏域の上空をヘリコプターで周回飛行することを通じて、幼少期から圏域への帰



伊賀市長 岡本 栄

【最近のマイブーム】  
愛猫「にゃん」のお世話、Instagram



属意識と一体感を育むことをめざした。昔からのつながりを未来に向けてしっかりと継承していくことが大事な政策だと考えている。

今後についても、地域のさまざまな課題に対して、しっかりと無駄を省き、より効率的に、より一層一体感を高めて取り組んでいきたい。

### 山添村



山添村長 野村 栄作

【最近のマイブーム】  
出勤前の野良仕事



伊賀市、笠置町、南山城村、山添村の3府県4市町村による定住自立圏は、他に例を見ないと思う。現在さまざまな分野で連携を進めているが、やはり人口減少・少子高齢化対策として、圏域内の交流人口の増加や労働力のシェアなどの連携を期待したい。新設したこども園に併設しているこ

ども家庭センター「てんくる」は、4月からの累計で日曜日だけで他市町村からの利用者が50人近くあった。今後、圏域内の子育て世代の交流の場になればと考えている。さらに、南海トラフ地震など、緊急災害時における共助・公助の体制づくりをしていきたい。

本村では、今年度、国の有機農業産地づくり推進事業を取り入れ、オーガニックビレッジ宣言を予定している。各市町村でも関心が高いと思うので、この圏域で、共に進められたらと思う。取り組みの一つとして山添分校で「有機農法を学ぶ講座・YAMAZOEオーガニックスクール」を開校している。興味のある方々にぜひ参加していただきたい。また、興味のある生徒をどしどし送り込んでいただきたい。

首長インタビュー第2弾(笠置町・南山城村)は11月号をお楽しみに!